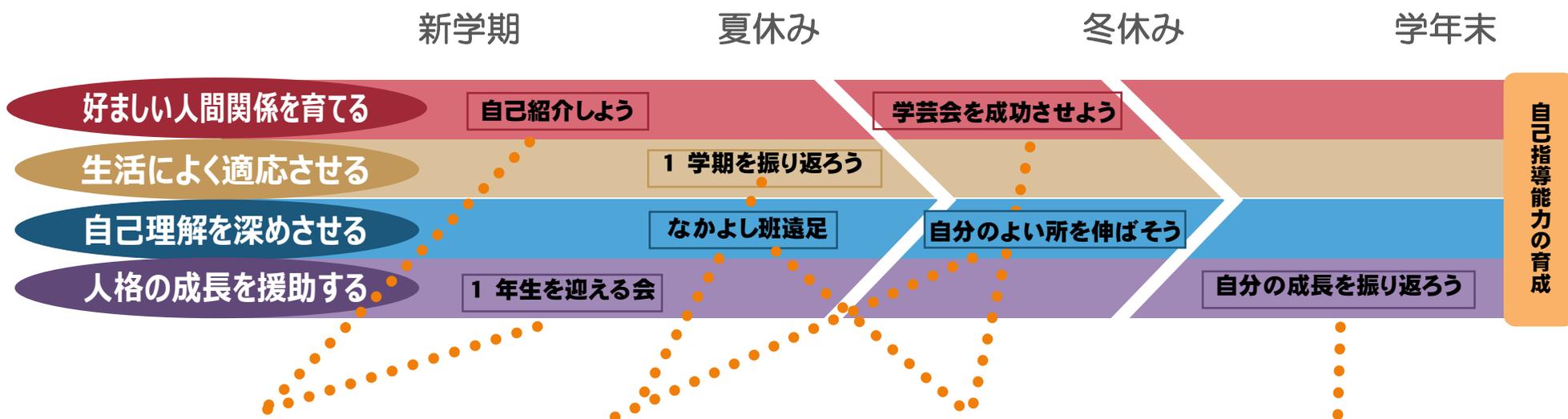


2 指導計画例 小学校



新学期に

新学期は、子どもたちが新しい仲間と好きな人間関係を築かなければならない期間です。新しい学級に対する不安や緊張の中、相手の立場に立ち、お互いに協力して活動を進めようとさせることが大切です。

また、新学期は、今までの自分の成長を振り返りながら、新たな決意をすることができる時期であり、人格の成長を援助する良い機会でもあります。自分の役割や責任を自覚させ、活動を通して充実感や達成感を味わうことができるよう指導し、自分の成長を実感させます。

長期休業前に

長期休業前は、学期の振り返りを通し、自己理解を深めさせるよい機会です。自分のよいところは何か、そのよさをどう伸ばしていくかを考えさせます。

また、学期を振り返り、その後の生活によく適応させるため、学習や生活の点検をさせるよい時期でもあります。充実した休みを過ごすためにはどうしたらよいかを子どもたちに考えさせ、自己決定を促すことで、学習や生活上の問題を改善する機会です。

学校行事の前後に

学校行事では、子どもたちはクラスや異学年など、様々な集団に所属して活動することになります。多様な集団の中にあっても、自他の個性を尊重し好きな人間関係を育てることが大切です。

行事の前後における、子どもたちの行動や発言の中から、そのよさを積極的に見出し生かすことによって、よりよい集団をつくることができるように指導することが大切です。

また、活動において、仲間との関わりを通して気付いたことを考えさせ、自己理解を深めさせることもできます。

学年末に

学年末は、自分の成長を振り返り、課題を把握し新年度への準備をさせる時期です。進級や進学にあたり、振り返りの中で自分自身の達成感や成就感を確認させ、人格の成長を援助する良い機会です。

過去と現在の自分を比較させ、1年間の自分の成長を振り返るとともに、新年度に向けて、自信をもって活動に取り組もうとする意欲をもたせます。

好ましい人間関係を育てる

自己紹介しよう（4月）

キーワード： 他者理解 自己存在感 人間関係

新学期は、子どもたちが新しい仲間と好ましい人間関係を築いていく時期です。

外国語活動では、自己や他者を理解する活動を通し人間関係を深めるとともに、特別活動では好ましい人間関係を築くためのルールを決めたり、道徳の時間では相手を思いやる気持ちについて学習したりして、好ましい人間関係を築こうとする態度を養います。

新しい学級に対する不安や緊張の気持ちを持ちながらも、自己存在感を互いに確認しながら仲間意識を醸成し、お互いに協力して活動をすすめようとする雰囲気づくりが大切です。

対象	第6学年	教育課程上の位置付け	外国語活動 特別活動 道徳の時間
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
4月	特別活動で学級のルールを決める ○学級会を開き、学級のルールを決める。 外国語活動で自己紹介の練習をする ○挨拶の表現や感情の表現、自分の好きなものと言う表現を理解する。 ○隣の座席の人と自己紹介をし合う。		□学習や生活に必要なルールを話し合い、全員で確認しながら決定していく。 □自分のことを相手によく理解してもらえた喜びを実感させるため、聞き手は表情やうなずきで理解していることを表現させる。 (他者理解)
	クラスメイトやALTに自己紹介をする【外国語活動】		
5月	道徳の時間で思いやりの心について考える ○読み物資料「最後のおくり物」を読み、誰に対しても思いやりの心をもつことの大切さについて話し合う。 特別活動で運動会の準備をする ○運動会のクラス応援を考える。 ○運動会の準備をする。		□思いやりの心をもつことが、好ましい 人間関係 を育むことにつながることに触れる。 □全員が一致団結し、クラスを盛り上げるための応援であることを確認する。 □協力して活動できるよう、役割を分担するなどの工夫をさせる。

人格の成長を援助する

1年生を迎える会（4月）

キーワード： 自発的・自治的 自尊感情 他者理解

人格の成長を援助するため、子どもたちに自分の役割や責任を自覚させ、自発的・自治的な活動を通して、充実感や達成感を味わうことができるよう指導します。

異学年の交流活動を通し、6年生としての役割や責任を果たすことや、児童会において主体的に活動することを通し、自己存在感や自尊感情を育むことにより、人格の成長を援助します。

活動を振り返る際には、自己理解や他者理解を通して自分の成長を実感させることが大切です。

対象	第6学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任、全教職員		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
4月	児童会活動で企画する ○代表委員会を中心に、「1年生を迎える会」を企画する。 学級会で内容を決定する ○「1年生を迎える会」の意義を理解し、代表委員会で決定した内容を具体化する。 ○グループに分かれ、それぞれのグループで実施するレクリエーションの内容を考える。		□全ての1年生が楽しめる内容となるよう考えさせる。 □「児童会だより」には図などを入れ、1年生が理解しやすいよう配慮する。 □一人一人が役割を果たすことの大切さを理解し、 自発的・自治的 に活動できるよう、係を細分化する。 □1年生の児童が楽しめるよう、果たすべき役割は何かを考えさせる。
	「1年生を迎える会」を実施する【特別活動】		
	○1年生がそれぞれのレクリエーションに参加し、6年生のお世話のもとでレクリエーションを楽しませるようにする。		□ルールが分からない児童やグループに馴染めない児童がいないかを確認する。 □6年生は 自発的・自治的 に行動するよう指導する。
	《活動例1》○×クイズ ☆ ○○小学校は10年前に建てられた、○か×か？ ☆ 担任の○○先生の趣味は将棋である、○か×か？ ☆ 給食にグラタンが出る、○か×か？		《活動例2》肩もみゲーム ① 1年生が円になって椅子に座り、その外側に6年生が立って並ぶ。 ② 1年生と6年生のペアで自己紹介をし、じゃんけんをする。 ③ 勝った方が椅子に座り、負けた方は肩をもんであげる。
5月	学級会で振り返る ○「1年生を迎える会」について、集会の内容がふさわしかったかどうかを個人で振り返り、その後全体で話し合う。 ○自分が協力できたところ、友達の活動のよかったところをグループで話し合う。		□全ての1年生が楽しめる内容だったかどうか、集会の内容について反省する。 □他者から承認されることをきっかけに 自尊感情 を高めさせ、相手を認めることの大切さ（ 他者理解 ）について指導する。

自己理解を深めさせる

なかよし班遠足（6月）

キーワード： リーダーとしての自覚 他者理解 自己理解

特別活動や朝の会、道徳の時間において、学級や学校生活の中で自己を生かそうとする態度を養い、自分のよさや可能性に気付くなど、自己理解を深めさせます。
 学校行事だけでなく、その前後の児童会活動や学級活動等において、クラスや異学年の仲間との関わりを通して気付いたことなどを、考えたり発表し合ったりし、一人一人の自己理解を深めさせることが大切です。

対象	第6学年	教育課程上の位置付け	特別活動
指導者	学級担任、全教職員		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
4月	<p>特別活動でなかよし班を編成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○クラスを班に分け、1年生から6年生混合の「なかよし班」を編成する。 ○各班の6年生の中で、リーダーを決定する。 ○リーダーとしての個人目標を考える。 <p>朝の活動で交流活動をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なかよし班では、6年生がリーダーとなり、年間を通じた交流活動を行う。 ○年度初めは、名前を覚える活動やゲーム等、児童同士の触れ合いが多い活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> □リーダーとしての自覚を深めさせるため、仲良く活動するためには何が大切か、6年生として何ができるのかを話し合わせる。 □班活動を運営する上で、自分のよさや足りないところを一人一人に考えさせる。 □各班の主体的な活動となるよう、担当教師は各班のリーダーを中心に指導をする。 □各班の6年生は、リーダーとしての自覚を深められるよう、一人一人に対応した指導を心掛ける。 	
6月	<p>なかよし班で遠足を実施する 【特別活動】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○各班で行動することを主体とした遠足を実施する。 ○なかよし班ごとに企画したレクリエーションを実施し、交流を深める。 ○レクリエーションの中で、おやつタイムを設ける。 ○昼食を一緒にとり、昼食後は学級で行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> □6年生にリーダーとしての自覚を高めさせるとともに、各班の自主的な活動をとoshi、仲間意識を高められるよう指導する。 □各班の活動を観察し、支援の必要な班にはリーダーに声を掛ける。上手に運営できている班については、リーダーに自信をもたせるような声掛けをする。 	
8月	<p>20分休みで校内オリンピックを実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童会の企画・運営による、校内オリンピックを開催する。 ○なかよし班で、競技に参加する。 <p>特別活動で振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○なかよし班活動を振り返り、気付いたことを一人一人が発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> □班員同士助け合い、協力することの大切さを味わわせることで、リーダーとしての充実感を感じさせるようにする。 □他者理解や自己理解を深めさせるため、各班や個人の活動を振り返らせ、うまくいったことや改善が必要なることを考えさせる。 	

生活によく適応させる

1 学期を振り返ろう（7月）

キーワード： 自己有用感 自己決定 自己理解

長期休業前は、今後の生活によく適応させるため、今までの生活を振り返り、学習や生活の点検をさせるよい機会です。

日々の授業での取組を振り返り、主体的に取り組んだことや改善が必要なことを明らかにし、達成感や向上心を高めるとともに、特別活動を中心として学級や自分の生活上の問題についても振り返らせ、自己理解を深めさせます。

学習や生活上の問題を改善するため、夏季休業をどのように充実させたらよいかを子どもたちに考えさせる際には、自己決定を促し、主体的に取り組もうとする態度を養うことが大切です。

対 象	第 4 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 各教科
指導者	学級担任		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
4 月 ～ 6 月	<p>毎日の授業で主体的に学習に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識や技能を活用し、主体的に学習に取り組む。 ○調べ学習などの成果物や表現活動の作品を掲示する。 <p>児童会活動で活動の成果を保存する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童会の各委員会の活動の成果を、ポスターにして掲示したり、活動の内容をポートフォリオで保存したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童に自己有用感をもたせるため、主体的な取組をほめたり、活動に困難を感じる児童を支援したりする。 □児童に達成感を味わわせるため、作品等を掲示し、児童の学びの過程を視覚的に捉えることができるよう工夫する。 □活動したことを振り返らせるとともに、今後の活動の見通しを持たせるよう指導する。 	
7 月	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> 学級会で 1 学期を振り返る【特別活動】 </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○児童それぞれが自分の生活を振り返り、よかったところと改善するところをまとめる。 ○学級としての 1 学期を振り返り、学級の改善について話し合う。 ○よりよい学級生活のために一人一人に何ができるかを考え、グループで交流する。 ○学習や生活を改善するために、夏季休業中に取り組みたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> □自分の考えを表現させるとともに、他者の発表を聞いて、自分の生活を振り返らせる。 □自分の生活を改善させるための具体的な取組を自己決定させる。 □学級の生活について考えさせるとともに、自分の生活についても振り返らせ、自己理解を深めさせる。 	
8 月～	<p>学級活動で 2 学期の生活について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1 学期の個人反省や学級反省を基に、2 学期の個人の生活目標やクラス目標について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> □取組のイメージがもてるよう、具体的な目標を設定させる。 	

好ましい人間関係を育てる

学芸会を成功させよう（9月）

キーワード： 人間関係 自己有用感

異学年が交流することにより相手の立場を考えさせたり、自己有用感を感じさせたりすることができます。学校行事などにおける異学年の児童による交流を通して、相手のよさを積極的に見つけ、互いに認め合いながら協力することで、好ましい人間関係を築こうとする態度を養います。学芸会のような全校で取り組む活動では、様々な人との交流を通して、互いに努力を認めながら協力するとともに、相手を思いやる心を育むことが大切です。

対 象	第 6 学年	教育課程上の位置付け	特別活動 道徳の時間
指導者	学級担任、全教職員		
時 期	○活動の概要		□指導のポイント
8 月	<p>道徳の時間で互いの考えを交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「相手の立場に立って親切に」（「私たちの道徳」）を活用し、心と行動についてクラスで考えを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> □今まで受け取った思いやりを振り返らせ、相手の立場に立って考えることの大切さや難しさについて考えさせる。 	
9 月	<p>下級生と協力した学芸会を企画する【特別活動】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○下級生の学級と縦割り編成し、上級生と下級生の混合のグループで活動する。 ○下級生のときに上級生にしてもらって嬉しかったことや、上級生としてやってあげたいことを話し合う。 ○下級生と一緒にできる学芸会での発表についてクラスで考える。 ○学芸会を成功させるためには、下級生にどのようなサポートが必要かを話し合う。 ○役割分担を決め、必要な準備を考える。 ○活動のめあてを話し合って決める。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童の発想を生かした計画を立てることができるよう、段階的な指導を心掛けるとともに、下級生に対して指導する場面を具体的に想起させる。 □好ましい人間関係を築こうとする態度を養うため、相手のよさを積極的に見つけることの大切さに気付かせるよう指導する。 	
10月	<p>学芸会で下級生と協力する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下級生と協力して学芸会を実施する。 ○それぞれの役割を果たす。 <p>学級会で学芸会の振り返りをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学芸会のよかったところや改善するところを個人で振り返る。 ○下級生と活動をすることでよかったことや困ったこと、友達や下級生のがんばったところなどについて、学級で意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> □下級生のお世話について支援する。 □学芸会での役割を果たすことについて支援する。 □自己有用感を高めるため、上級生としての役割を果たしている児童に対して、前向きなフィードバックをする。 □自己有用感をもてるよう、活動のよい点について児童同士が称賛し合えるよう指導する。 	

自己理解を深めさせる

自分のよいところを伸ばそう（11月）

キーワード： 自己理解 よりよい人間関係 他者理解

長期休業前は、改めて自分の特徴を見つめ直すとともによいところを伸ばし、気になるところを改めていこうとする態度を育てていく時期です。この時期に「なりたい自分像」を描かせ、自分の個性を伸ばしていくきっかけづくりをさせるとともに、自己有用感を高めさせていくことが大切です。道徳の時間を中心として「自分のよさの発見」や「よさの伸長」を望む態度の育成を通して、自己理解や他者に対する認識を深めさせます。

対象	第4学年	教育課程上の位置付け	道徳の時間 学級活動 社会科 国語科
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要		□指導のポイント
10月	<p>道徳の時間で自分の長所と短所について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分のよいところ、気になるところはどこだろう」（「私たちの道徳」）を活用し、自分の長所と短所について考える。 <p>学級活動でよりよい人間関係づくりについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学級でよりよい人間関係を築くため、一人一人がどのような態度をとるべきかについて話し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> □自己理解が深まるよう、自分の特徴について考えさせる。 □克服すべき短所に気付くことができるよう、学級内でトラブルとなる原因について話し合わせる。
11月	<p>自分のよいところについて話し合う【道徳の時間】</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のよいところをみんなが認めてくれてうれしかった経験についてグループ内で伝え合う。 ○「うれしく思えた日から」（私たちの道徳）を読み、自分のよいところを伸ばそうと努力する主人公の思いについて考え、グループ内で話し合う。 ○「自分のよいところを伸ばして」（私たちの道徳）を活用し、自分のよいところをどのように伸ばしていくかについて、グループ内で話し合い、その後学級全体で共有する。 ○学級でよりよい人間関係を築くため、グループ内の友達のよいところを互いに見つけ合い、その後学級全体で共有する。 		<ul style="list-style-type: none"> □発表しやすい雰囲気となるよう、グループで行う。 □次の活動につながるよう、具体的な言葉を引き出させる。 □長所の具体的な伸ばし方について考えられるよう、前段の活動で出てきた言葉を振り返らせる。 □他者理解を深められるよう、友達のよいところについて考えさせる。
12月	<p>道徳の時間で各自のよいところの伸ばし方について共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前回の道徳の時間で話し合った自分のよいところの伸ばし方について、各自が実践していることを発表し合う。 ○他者のよいところの伸ばし方を参考に、改めて自分のよいところの伸ばし方について考え、ワークシートに記入する。 <p>国語科の授業で先人の生き方に触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読書発表会をしよう」において伝記を読み、先人の生き方について学ぶとともに、友達に登場人物の生き様を紹介する。 		<ul style="list-style-type: none"> □学級全体が向上心をもって取り組もうとする雰囲気となるよう、お互いのよいところを伸ばす方法について共有させる。 □将来における目標をもち、自己理解の大切さを理解することができるよう、自己の生き方と先人の生き方を重ね合わせる。

人格の成長を援助する

自分の成長を振り返ろう（2月）

キーワード： 自己有用感 自己理解 達成感・成就感

2年生の学年末は、小学校生活2年間を振り返る活動により、自分の成長を感じるとともに自己有用感を高めるよい機会となります。

生活科における「大きくなったことをまとめる」活動や、道徳の時間における「自分の生活を振り返る」活動を通して、自分でできるようになったことや役割が増えたことなどを自覚させることで自己有用感を高めることができます。向上心をもって、3年生に向けて意欲的に学校生活を送ることができるよう、人格の成長を援助することが大切です。

対象	第2学年	教育課程上の位置付け	生活科 道徳の時間 国語科 図画工作科 特別活動
指導者	学級担任		
時期	○活動の概要		□指導上のポイント
2月	道徳の時間で自分の役割について振り返る ○「自分でやることはしっかりと」（「わたしたちの道徳」）を活用し、自分がこれまで頑張ってきたことや学級での自分の役割について話し合う。 図画工作でおもちゃ作りを教える ○新生1日入学の際、「うごくおもちゃ」の作り方を幼児に教える。		□児童に 自己有用感 を感じさせ、実践意欲を高めるために、これまでの生活を振り返らせ、自分の役割を果たせるようになったことを自覚させる。 □幼児におもちゃ作りを教える活動を通して、どのように教えると相手が喜ぶのかを考えさせる。
2月	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; display: inline-block;"> 成長したことをまとめる【生活科】 </div>		
	○「逆上がりが初めてできた時、友達が一緒に喜んでくれた」、「上級生みたいにほうきを上手に使うなど、できるようになったことを交流する。 ○「わたし物語」を作成する手順について知る。 ○家庭生活で成長したことについて保護者にインタビューをしたり、幼児や1年生の頃の様子について当時の先生にインタビューしたりする。 ○「わたし物語」を作成する。 ○作成に協力してくれた方や今までの成長に携わった方に感謝の手紙を書く。 ○3年生で頑張りたいことをまとめ、発表する。		□過去の自分と現在の自分との比較により、成長を実感（ 自己理解 ）させ、自分の成長の過程を調べたいという意欲を湧かせる。 □児童のプライバシーの保護や家族構成に配慮する。 □電話のかけ方やインタビューの仕方など、生活上必要な技能を身に付けさせる。 □「わたし物語」の作成や「3年生で頑張りたいことの発表」を通して、自分の成長や役割が増えたことに気付かせ、 自己有用感 を味わわせるとともに、さらなる成長を願う気持ちを育てられるよう工夫する。
3月	国語科で作文を書く ○「1年のできごとをふり返って」において、思い出に残っていることを作文に書いたり、友達の発表を聞いて、友達の成長を知ったりする。 特別活動で身体の成長を確認する ○学年末の身体測定を通して、心身の成長について理解する。		□活動を通して、自分の成長を振り返られるよう、生活科の「わたし物語」を参考にさせる。 □作文集を作成することで、 達成感 や 成就感 を味わわせる。 □学級担任や養護教諭の説話を聞くことを通して自分の成長を自覚させ、 自己理解 を深めるとともに、自信をもたせるようにする。